科目分類	専門基礎科目　健康の理解と健康支援	開講時期	2年	前期
科目名	臨床病態学Ⅰ			

選択/必修	必修	単位数（時間数）	2単位	60時間	授業形態	講義
担当教員	徳永　日呂伸					

メールアドレス	h-tokunaga@tsuruga-nu.ac.jp	オフィスアワー	在室時いつでも可 不在時は気軽にメール等で

授業目的	病態の機序を理解しているからこそ可能になる思考過程があり、それによって看護の質は飛躍的にアップして応用も効くようになります。 一味違うスーパーナースを目指して頑張ろう！
授業概要	病気の予防・治療・回復における看護を行うにあたり、是非とも理解しておくべき各疾病の基本的機序といったものがあります。 そうしたポイントを押さえつつ「実際に何をするかは現場に行ってから学べばいい（ので基礎的なことだけ詳しく）」ではなく、即具体的に役立つ講義をします。
授業計画	第1～4回　概説（内因・外因、循環・細胞・組織、感染・腫瘍、遺伝子異常等） 第5～8回　血液と体液、酸塩基平衡 第9～12回　筋・骨格系 第13～18回　脳・神経系 第19～20回　感覚器（眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科疾患など） 第21～28回　代謝・内分泌系 第29～30回　代謝系、まとめ 【予定は目安で、進行状況によって適宜変更します】
教材 参考文献等	教科書：系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学（第2版）2016 田中越朗、医学書院
成績評価 基準・方法	出席・期末テストの結果などから総合的に判断します。
履修要件	特になし
留意事項 その他	1年次の形態機能学の上に積み上げる形で毎回新しいことを沢山学びます。教科書での予習が大切です。講義時、1年次の教科書「解剖生理学」も持参すること。

留意事項 その他	臨床医としての経験を活かして、疾病の原因や予防・経過～回復の過程・治療の実際など、それぞれの病態の全般について講義します。 また、患者さんやその家族などへのお話やアドバイスのコツなども折にふれて伝授します。
実務経験のある教員の教育方法	臨床医としての経験を活かして、疾病の原因や経過、回復の過程、治療に関わる病態の全般について講義を行う。